

「医療崩壊おこさせない対策急いで」

県民医連から聴き取り

23日、県コロナ対策本部は広島県民医連との懇談をおこない、医療現場の現状と課題を聞きました。大平喜信前衆議院議員（本部長）、辻恒雄県議会議員（副本部長）らが参加しました。



大平よしのぶコロナ対策本部長
コロナ問題で電話インタビュー

今何より大事なこと

- 県民・医療従事者の安心・安全確保
- 医療崩壊をおこさせないこと

県民医連・医師の藤原さんから「今なにより大事なことは、①県民と医療従事者たちの安心と安全を確保すること②医療崩壊をおこさせないことの二つ。そのために症状の程度ごとに適切な措置がおこなえるようにすること、PCR検査センターを広島でも設置すること、そのための思いきった財政措置をおこなうことが求められている。マスク、手袋、ガウンなどの医療資材の不足はいよいよ深刻な状況。介護現場も含めて医療資材の確保と提供へ抜本的な手立てを」と話されました。

県連の西村峰子事務局長からも「現場では防護服の代わりにゴミ袋をかぶって代用していたり、フェイスガードは100円ショップでクリアファイルを購入し事務局で手

作りしている」とのうったえがありました。

広島県

● マスクなど提供

医療機関 14億円分

福祉施設 15億円分

● ドライブスルー方式検体採取導入

● 病床を200床確保

補正予算案より（一部）

辻県議からはこの日説明のあった県の補正予算案の内容について紹介。医療機関へのマスク等の一括購入に14億円、同様に福祉施設などへの提供に15億円が計上され、ドライブスルー方式による検体採取の導入や病床を200床を確保したことなどの説明がありました。

4月30日、5月1日におこなわれる県の臨時議会で補正予算案の審議が行われます。寄せられた要望は引き続き県や国へ求めています。

じゃけえ！

日本共産党

大平喜信Twitter



LIVE配信中



日本共産党広島県委員会

Tel 082-228-3366 Fax 082-227-8120
Mail jcph@nifty.com